

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党東部地区委員会・松江市袖師3-6 電話24-2456



2月20日、みしまや春日店前交差点で、田中はじめ市議予定候補を先頭に、片寄直行市議、後援会員ら12人で街頭宣伝を行いました。田中氏は、原発のない松江、暮らし第一の市政めざして奮闘すると訴えました。(写真)

のぼり旗三本、自作パネル八枚がずらりと並ぶ宣伝は迫力十分、通勤・通学の市民の注目を集め、当日の市役所では、「勢いがありましたね」と

の会話が交わされたとのこと。この日の宣伝は、18日に開催された事務所開きの集いで、「あなたはどんな協力ができますか？」とのアンケートが取り組まれ、朝宣伝の場所と時間も配布されたことによるものです。

田中はじめ選対は、この熱気をさらに広げ、5日の日本共産党演説会の大成功につなげようと奮闘中です。

田中 党市委員会 政策委員長 先頭にアピール

朝の宣伝行動に12人が参加

2月市議会一市長の政治姿勢を問う

基地・子育て・消防

吉儀敬子市議が代表質問



オスプレイ墜落事故踏まえ

空中給油機配備同意の撤回を

2月27日、吉儀敬子議員が日本共産党市議団の代表質問に立ち、基地問題など市長の政治姿勢、待機児童対策（以上1面）、消防体制（2面）などについてたずねました。

た時期が、沖縄で空中給油中のオスプレイが墜落した事件から数日しか経っていないにもかかわらず、他の関係自治体に先駆けて了解した問題を取り上げました。

日本共産党が実施した住民アンケートの国政問題で美保基地の空中給油機配備に56%の市民が反対という結果が出ました。吉儀議員は、市長が空中給油機配備を了承し

美保基地は、米軍のオスプレイにも給油することが可能です。沖縄の事故はよそ事ではなく、松江市近郊の上空でも起こる可能性があるということであり、市民の命と安全を守る責任ある市長として、配備に反対すべきではないか

と市長の政治姿勢を問いました。

これに対し、松浦正敬市長は「配備で影響を受ける地域

保育所の待機児童解消を

保育所の待機児童は、昨年4月1日に22人でしたが、月を追うごとに増え今年の2月1日は383人に膨れ上がっています。

吉儀議員は、保育所を落ちた保護者が、一時保育の制度で2ヶ所の保育所に預け、第3子でも保育料は無料にならず、割高な保育料を払わねばならない実体を示して、本来松江市が、希望する子どもはすべて認可保育園に預けられるよう対策を取らなければなら

の声も聞き、また、議会の多数も了とするとの意見も踏まえて、県へ同意回答した」と答えました。

ならないのに、このような不公平な対応が放置されていることは「子育て日本一」を掲げる政策と、相反するではないかとたずねました。

また、兄弟を別の保育園に

入れなければならず苦労しているケースや、やむなく入所をあきらめるケースなど、「自己都合」とされている待機児童の実態を正確につかみ、待機児童をゼロにするよう求めました。

松浦市長は「自己都合の内容の把握につとめるとともに、待機児童の解消に向けて施設整備にもとりくんでいきたい」と述べました。

(2面に続く)



「戦場ぬ止み」の上映会に150人 「私も何かしたい」とカンパ続々

野孝治代表)の第1回企画として開催されたもの。冒頭、あいさつした高野代表は、島根でも美保基地に空中給油機が配備されようとしている。沖縄ではオスプレイが空中給油中に墜落した。これはヨソごとではない。今こそ、沖縄と連帯して、日本の民主主義を守るたたかいを起こそうとよびかけました。

当日は、参加者から同会への入会があいつぎ、たくさんのかんぱと感想が寄せられました。ある人は「私たちの平和は（とりあえず）沖縄の人たちの犠牲の上に成り立っている。しかし、これは私たちのことなのですね」と書いていました。

吉儀市議の質問(続き)

合併で消防が遠くなり不安が… 東出雲の消防体制充実を

吉儀議員は、東出雲町内と八雲町内の消防出張所を南分署に統合したことによる東出雲町民の不安について問題にしました。

東出雲町が合併する前の平成12年は、救急出動件数は286件で、現場到着時間の平均は5、6分でした。合併して、昨年4月から東出雲町の出張所はなくなり南消防署と南分署から来ることになり、昨年の4月から12月の出動件数388件で、現場到着

時間の平均は9・3分であるということが明らかとなりました。

東出雲町は、人口が増え続け出動回数は、大幅に増えたにもかかわらず、消防署が遠くなったことで時間がかかり、今年の1月7日には到着までに13分もかかったという事態も発生しています。

吉儀議員は、現場の状況に臨機応変に対応して到着時間を短縮するなど、消防体制の充実をはかるべきとただしま

市議2期目をめざして

なんとしても市政へ

4月の政治戦で2期目をめざす吉儀けい子市議の事務所開きが、2月25日、東出雲町内で開催され、42人

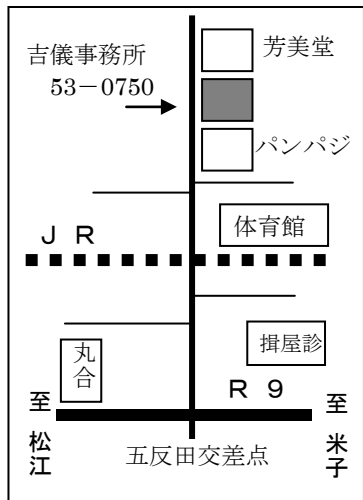
が参加しました。

岩田剛衆院島根1区予定候補の挨拶の後、尾村利成県議が、県と市と一体になって原発問題・国保問題・水道問題等に取り組んできたことを紹介。安倍暴走政治いいなりの松浦市政にきっぱり対決する

党の議席の必要性を訴えました。

吉儀市議は、松浦市政とキッパリ対決してきた日本共産党の3議席の値打ちを強調しました。(写真)

吉儀市議の夫であ



島根原発再稼働絶対止めよう!

県民集会

● 3月11日(土)14:00~

● 末次公園 (市役所前)

呼びかけ団体

島根原発・エネルギー問題県民連絡会

した。渡部正夫消防長は「到着時間短縮は、緊急車両のルートを一時的に決めている。迅速かつ安全確実な消防活動にとめたい」と答えました。

る和平氏から吉儀市議の議員活動の一端が紹介されたあと、東出雲町共産党後援会代表の小笹和子さんが考えた「炭坑節」の替え歌を参加者が心を一つに元氣よく歌い、大庭・古志原・八雲・宍道・長命園からそれぞれ選挙に臨む決意が語られました。最後に一瀬徳信党支部長のリードでガンバローを唱和しました。

もっえっり 探訪

鹿島町一佐陀川

一 宍道湖の洪水対策として 難工事に挑んだ清原太兵衛

文と写真 吉川 晴雄 (15)



17世紀前半に斐伊川が宍道湖に流れ込むようになり、大雨が降るたびに松江のまちは浸水の被害が相次いだ。それまで宍道湖の水の排水口は、東側の中海へと出る大橋川と天神川だけだった。

土木に通じていた松江藩士の清原太兵衛は、途中まである二つの河川を繋ぎ、北側の日本海へ抜ける運河を開削できないかと考えていた。

難工事が連続して 完工目前にして死去

真つ先に直面したのは、村人たちの土地収用にたいする反発であった。ねばり強く説得し、出雲国全体から人夫を駆り出してようやく着工したが、やわらかい地盤のため護岸が崩れる難工事となった。しかも、佐太神社の神域を貫通することから、祟りを恐れる周囲の反発も出た。そのため、

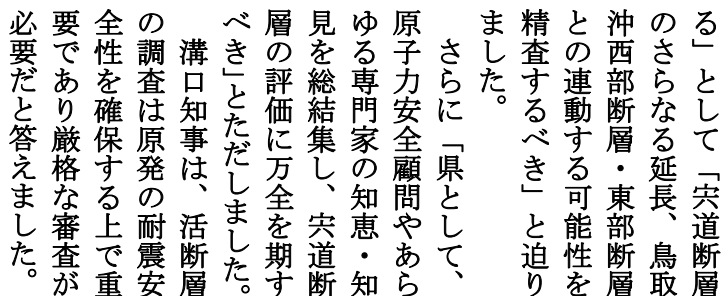
十数回の上申の末にようやく着工したが、太兵衛は、日本海に流れる忠太夫川と宍道湖に流れ込む多久川を結ぶ新川をつくり、さらに川幅を拡張することを提案。しかし、10年間に12回も上申したが取り上げられなかった。たまたま1782年から連続3年の洪水が起り、松江城の三の丸御殿まで浸水し、藩主の治郷が避難する事態に。折よく藩財政も好転してきたこともあり、太兵衛に普請奉行として着工が命じられた。太兵衛、73歳、1785年のことであつた。



佐陀本郷の佐陀川沿いにある「鹿島マリーナ」(写真右)がある。古代には、この辺一帯に周囲3キロにも及ぶ恵曇陂という大きな沼が広がっていた。その後、江戸時代に佐陀川運河が開削され、水田開発によって沼は消滅し稲田になったが、近年、その一部を再び水域に戻してマリーナとしたものである。

恵曇陂について、出雲国風土記では池の底に土器や甕、敷瓦がたくさん有り、昔からしばしば人が溺れ死ぬと記す。さらに水深は不明と、何ともミステリアスな記述がある。佐陀川開削はこうした湿地帯解消にも役立ったのである。

発行 日本共産党東部地区委員会・松江市袖師3-6 電話24-2456



橘市議の質問（続き）

■ 中海再生には堤防開削を

橘祥朗議員は、中海地域の振興について、市長が中海の水質改善を「総合的な対策に取り組み」と述べていることについて、具体的に何をするのかと質問しました。

市長は、中海会議で汚濁メカニズムの解明を進めることと、くぼ地対策や浅場造成など検証し、効果のある対策から取り組むと述べるにとどまりました。

橘議員は、漁業関係者や研究者は堤防開削が必要と訴えている。潮通しなど、手近か

なところからでも取り組むべきと主張しました。

橘議員は、まちおこしで、八束の有志が田や畑を守り、コメやさつまいもで特産の酒類づくりに取り組んでいることを紹介。また、水上飛行機に合わせて、より具体的な地域振興策に取り組むことを強く求めました。

市は、地域の活性化の取り組みを支援する、中海地域での観光やサイクリング、魚類の復活、地熱発電計画など進めると答弁しました。

■ 北道路はきつぱり中止を

橘祥朗議員は、松江北道路について、わずかの時間短縮に250億円もの税金を投入することが本当に必要なこと



2月17日に古曾志町で開かれた松江北道路住民説明会（朝日が丘集会所）

か、地元説明会の様子を聞き、益々その感を強くしたと述べました。

そして、松江ジャンクションから現状では29分、計画路線で短縮されて18分。11分の短縮との説明があったことを改めて確認しました。

橘議員は、「豊かな農村・田園地帯を破壊し、遺跡の存在も指摘されているこの地域に道路は必要ないとの意見も強く、民意を反映していない。コハクチョウなど大型水鳥の飛来地として、宍道湖・中海周辺は大切にしたいという市

松江
北道路

住民合意なき事業は強行するな 尾村県議、県議会でただす

3日の県議会で、尾村利成県議は松江北道路計画についてとりあげました。この中で尾村県議は「松浦市長は、地元の『古江地区要望ルート』（古江案）を県に要望しているが、この案は地元の総意ではない。住民の理解と合意なき事業は強行してはならない」と迫りました。溝口知事は「公共事業を進めていく上では、住民の理解を得て進めていくことが大事」と答えました。

長のかえとも反する」と述べ、環境破壊につながり、30年かかるこの事業は、きつぱり反対すべきだと強く主張しました。小川都市整備部長は、「古江案では国の補助事業として難

片寄市議の質問（続き）

■ 市長、路面電車を断念へ

片寄市議は、次世代型路面電車（LRT）は巨額の投資が必要で、狭い道幅の松江市には適合しないことを主張し続け、導入を検討してきた市長に最終結論を出すことを迫りました。

松浦市長は「既存の道路に軌道を通すことや多額の経費がかかることから、市民の理解を得ることが難しい。発想を転換して、一畑電車、JRをLRTのような考えで捉え、各駅からの二次交通として、バスを接続させるような

ずいそう



市民とともに歩んで…

アンケートから見える 「命の叫び」

吉儀 敬子

市議会議員選挙を前に、日本共産党松江市委員会、1月より住民アンケートを市内4万世帯に配布しました。中間集計をしたところ、市民の暮らしの大変さが浮き彫りになりました。70%の市民が「苦しくなった」「やや苦しくなった」と回答。その原因や心配なこととして、年金が少

ない、国保料が高い、税金

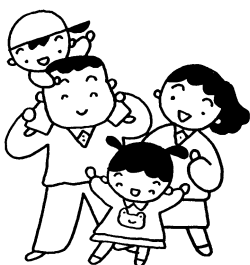
や公共料金が低いことをあげ、保育料の負担軽減、給食費、教材など保護者負担の軽減を望む声が上がっていました。

私が、そのアンケートから特に胸を痛めたのは「母子家庭で3人の子どもを育てています。末の子を保育園に入れられず、私の医療費もあり、働けず収入はゼロ。貯金もなく学資保険を

解約している。あと何ヶ月生きられるでしょうか」と書き込み欄に書かれた、命の叫びでした。名前と連絡先が書かれており、議員団で対応しましたが、このように政治が市民の暮らしを追いこんでいることに、怒りがこみ上げてきました。松浦市政のこの4年間、火葬料は8千円から1万4千円に値上げ、国保料は島根県一高い国保料になり、介護保険料も値上げに…。「アンケートの叫びをしつかり受け止める議席を必ず！」の思いを強くしました。

退任あいさつに、松浦市長「私の成長につながった」と

2月定例市議会での一般質問で片寄直行市議は今限りで引退することを表明しました。松浦市長は「我々の考えと一致しない点は多々あったが、安全・安心、市民の幸せという点では方向性は一致していたと思う。特に原発の安全性については毎回鋭い指摘をいただいた。それに答えるために必死になって勉強し、そのことが私にとって成長につながった。感謝申し上げる」と述べました。最後の質問を終えた片寄市議は「今後は一市民として、主権者として何らかの活動に邁進したい」と語りました。



日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党東部地区委員会・松江市袖師3-6 電話24-2456

フクシマくり返すな！県民集会に500人

島根 再稼働止めよう

橘・吉儀・田中 市議員候補も参加、パレード



いっせいにプラカードを掲げて「島根原発再稼働ノー」をアピールする参加者たち。左上は、参加した市議予定候補たち。(松江市末次公園)

東日本大震災と福島第一原発事故から6年が経過した3月11日、松江市末次公園において「島根原発再稼働絶対止めよう！県民集会」が開かれました。島根・原発エネルギー問題県民連絡会の主催によるもの。会場には、約500人が参加し、「再稼働NO!」と書かれたプラカードを掲げました。

同会の保母武彦事務局長は「原発再稼働反対の世論を多数派にするため署名運動の成功を」と呼びかけました。島根民医連の樋野伸一氏（診療放射線技師）は「未だに多くの人が避難生活をしていて。収束などしていない」と訴えました。

福島県南相馬市の避難所から最近、松江市内に引っ越しし車椅子で参加した女性は「障害者は災害時に極限の厳しい状態に置かれる。このようないきなり反対する政治の実

米軍事一体化と美保基地問題

「市民憲法フォーラム」講演会

第34回市民憲法フォーラムが7日、教育会館で開かれました。「日米軍事一体化の加

現をと語りました。また市内の男性は「福島原発事故は終わっていないと感じた。島根原発のために避難者をこれ以上増やすことがあつてはならない」と話しました。

集会後、参加者は市内をパレードして市民にアピール。日本共産党の尾村利成県議、橘祥朗・吉儀敬子市議、田中はじめ松江市政策委員長も参加しました。

速と美保基地問題」と題して田中文也氏（境港革新懇世話人）が講演しました。田中氏

は美保基地が今後、日米の軍事的戦略において重要になってくるとのべたうえで「それに抗して美保基地を平和の拠点にしなければならぬ」と訴えました。

市議選3 候補

奮闘中

橘 耐震診断の条件緩和へ

松江市は木造住宅の耐震強化のため、耐震診断や住宅改修をする際の補助制度を作っています。

対象は昭和56年5月31日以前に着工された木造2階建てまでの建物です。しかし、それ以降増改築がされた住宅はこの制度から外されていました。

橘議員は「これでは耐震化が進まない、地震も各地で起こっており、条件を緩和して枠を広げるように」と主張し続けてきました。その結果、来年度から、増改築された住宅へも補助対象枠が広がることになりました。

吉儀 学テ問題で市の対応迫及

6日、吉儀敬子市議は、教育民生委員会において新年度一般会計予算の教育費部分について、学力テストの問題を追及しました。

県教委の調査で松江市は、過去の問題をテスト直前に実施していたことが明らかになりました。吉儀委員は、その行為の背景に、市が総合戦略や総合計画に学力テストの点数を上げることを目標にしているからではないかと質したところ、教育委員

会は「各学校の判断で実施している」と、市の責任を学校に押し付ける答弁をしました。

田中 医療・福祉で女性のつどい

12日、法吉公民館で、田中はじめ市議予定候補を囲む医療・福祉女性の集いが開催され、16名が参加しました。田中はじめ予定候補は、自衛隊の若者を一日も早く日本へ戻すため、原発のない松江を若者に渡すために、国政と市政の転換を訴えました。その後、参加者は誕生月の順番に全員が発言、政治への願いを交流しました。

第2部は、大正琴の伴奏で「春が来た」など三曲を全員で歌い、続いて、安達久美子元鹿島町議による「岸壁の母」の出し物に会場は盛り上がりました。日本共産党の3議席確保にむけ、政策の訴えを拡げる決意を固めあう会となりました。

国際女性デーの集い開催

加納佳世子さんが講演

「21017 国際女性デーの集い」が 8 日、松江市内で開かれ 60 人が参加。安来市加



納美術館の加納佳世子さんが「恒久平和を希って—画家・加納莞菴—」と題して講演しました。(写真)

莞菴(1904〜77)は、戦後、フィリピンで旧日本兵の助命嘆願活動を通じて、当時のキリノ大統領とも交流。加納さんは、二人は、人類平和のために「目には目を」ではなく、戦争という憎悪の連鎖を断ち切って、子どもたちのために恒久平和をとの思いで一致していたことを紹介しました。

参加者の一人は、「戦争の悲惨さ平和の大切さを改めて認識した」と話していました。

—第24回 地域自治講座— 松江市政の課題は何か？ 「市民版松江市白書」からの提言

と き・3月25日(土) 13:30～

ところ・県民会館303号室 資料代500円

主催・しまね地域自治研究所(32—6137)

ずいそう

市民とともに歩んで…



はじめの一步を みんなの一步に

田中はじめ

原発のない松江、市民の声が届く松江、市民にあたたかい松江、3つの転換をめざし、街頭での訴えを続けています。

大切にされる航海を実現するために、あなたの力を発揮してほしい。この思いが、生徒と学んだ原点です。

私は、中学校教員の頃、学校での生活を船の航海に例えて、生徒たちと学んできました。「航海の目的は、一人一人を大切にすること、船のお客さんでなく、乗組員として、一人一人を

大切にされる航海を実現する立場になりました。個々の訴えの根本に、「私たちが社会をつくった目的は、個人の尊厳を守るため。一人一人が一步を踏み出し、力を合わせ、個人の尊厳を守る社会を実現しましょう」と

いう思いがあります。

昨年10月に、私、田中はじめが市議予定候補となり、はじめの第一歩を踏み出しました。すると、

○チラシやアンケートを配り、ポスターを貼ってくださる方

○街頭政策宣伝と一緒に立つてくださる方

○自作のパネルやニュースまで作ってくださる方

それぞれ「わたしの一步」が広がっています。

はじめの一步を、あなたの一步を、みんなの一步に広げましょう。市政三つの転換を実現する春を迎えるため、共に頑張りましょう。

もっえっり 探訪

■ 市街(橋北)一明々庵 —松江のお茶文化発祥 松平不昧公の茶室—

文と写真 吉川 晴雄 (16)



塩見繩手の裏手、赤山の丘の石段を上がると、茶人大名といわれた不昧公が、家老の有沢氏のために建てた(1779年)という茶室に着いた。(写真左)

不昧直筆の「明々庵」の額がかかる入母屋造の建物は、過去何度か移築され、古材は大半が失われていたが、不昧公らしい簡素な美をたたえていた。

茶の湯を極めた

「茶人大名」の不昧公

17歳で7代藩主となった松平治郷(はるさと)は茶禅の道を学び、明々庵や菅田庵など茶室をつくり、独自の流儀を確立した。また、名物茶器を収集して鑑定を行い、「古今名物類聚」、「雲州蔵帖」などの書を編纂した。さらに、楽山焼、布志名焼の陶芸、木工、漆工の工芸の発展にも尽力した。

「不昧」の号は、南宋の「無門関」にある「不落不昧」(因果の法則に落ちることなく、くまらずともできない)に因んでつけられたもの。不昧流として、松江に茶の湯、焼き物、和菓子を文化として定着させた。その背景には、京から降嫁した不昧公の祖母による京文化の影響があったといわれ、今も「京店」「京橋」の地名が残る。

茶道の銘品多く収納

菊竹設計の田部美術館

不昧公の所蔵していた茶器をはじめ、山林王といわれた田部家(雲南市吉田町)が代々収集した茶道関係の名品を展示しているのが田部美術館(写真下)である。

塩見繩手の一角に、鉄の錆色を生かした特殊な鉄板ぶきの入母屋づくりの美術館で、県立博物館や県立図

書館を手がけた菊竹清則氏の設計である。

展示品の中には、不昧の所蔵だった「秋塾」の銘のある青井戸茶碗や瀬戸の茶入れ「京わらべ」など重文クラスの名品もある。



「番茶を飲むように」

さらさらと薄茶を

松江を愛した花森安治は、「暮しの手帖」の松江紀行で「この町では、お茶は、けいこ事でもなければ、見せかけの教養でもない。よその町で、番茶をのむように、さらさらとす茶をたてて、のむ」と書いている。

映画「鐘の権三」の篠田正浩監督も、松江藩では、出世のために武道よりは茶道の方が役に立つと「槍の名手の笹野権三郎も茶道指南の門をたたく。それが悲劇の始まり…」と書いている。

また歌人の吉井勇は「不昧公の茶のこころをば思ひつつ往けばしづけし 松江古街」と詠んでいる。

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党東部地区委員会・松江市袖師3-6 電話24-2456

4・16
市議選

3 議席確保へ猛ダッシュを

市議選必勝！総決起集会開く



17日夜、「市議選必勝！総決起集会」が開かれ、4月の市議選で3名勝利を勝ちとろうと決意を固めあいしました。(写真)

冒頭、岩田剛地区委員長が「市議選の意義について」報告。この中で、かつてなく多くのアンケートが返ってきていることを紹介し「切実な暮らしの声がギッシリと書き込まれ、市民の政治への怒りが高まっている」と

して「市民の願いを市政に届ける日本共産党の3議席を必ず」と訴えました。

続いて、後藤勝彦県委員長と尾村利成県議員が、国政問題、市議選の政策・争点について報告。後藤県委員長は、PKOの日報隠蔽問題や森友問題で緊迫している国会情勢にふれ「党への注目が高まっているが、選挙はやるべきことをやりつくしてこそ勝利できる」と訴えました。

橘よしあき、吉儀けい子、田中はじめの3名の市議予定候補が必勝の決意を語り、支

くらしと命を守る市政へ

橘、吉儀、田中 市議員予定候補ら街頭から訴え

2月定例会市議会は16日に閉会。日本共産党議員団は翌



17日、さっそく議会報告の街頭宣伝に立つとともに、4月に間近に迫った市議選で、「市民のくらしと命を守る日本共産党の3名を必ず市政へ」と訴えました。(写真)

片寄直行市議は、次世代型路面電車(LRT)を断念させ、無駄使いをやめさせたことを報告。250億もの巨費を投ずる松江北道路の建設中止の世論をしめす選挙にしようとして訴えました。

部・後援会からの発言に続いて、岩田地区委員長が行動提

大增税・安倍政治にノー

3・13重税反対統一行動



13日、労働会館を会場に、重税反対統一行動が開催さ

れ、200名が参加しました。集会、デモ行進(写真)、集団申告で消費税増税中止を求め訴えました。

集会では、主催者挨拶の後、尾村利成県議員が連帯挨拶を行い、政務活動費の問題で緊迫する県議会の様子を報告、また、冷たい松江市政の実態を告発する中で田中はじめ市議

橘祥朗市議は、今議会で可決した松江市総合計画の問題点を指摘。原発再稼働をやめて安心・安全な松江市の展望を記述すべきと論じたことを報告しました。

吉儀敬子市議は、学力テスト対策として過去問題を生徒にさせていたことを指摘。松江市教育委員会の責任逃れの答弁を批判しました。

田中はじめ党市政政策委員長は、国保の基金の溜め込みが9億1000万円を超えている問題を指摘。この一部を取り崩し、1世帯1万円の保険料引き下げを訴えました。



市議会最終日の16日、橘祥朗市議は、議案10件、請願1件について、委員長報告に反対の討論を行いました。

この中で、松江市が中核市の指定を申し出ていることについてとりあげました。橘市議は、大合併が推進されて自治体周辺部で大幅な人口減少をしている時に、「地方

中核市移行は地方切り捨て

橘 祥朗市議が反対討論

中核拠点都市構想」を打ち上げて、「中心市」を定めて投資を集中すれば、いっそう周辺部の衰退に拍車をかけ、道州制への道につながる危険性があり、さらなる市町村合併の推進になる」と述べました。

そして、その関連で、中核市移行、原発再稼働を前提とした「松江市総合計画」にもきっぱりと反対するとともに、総合計画を踏まえた来年度一般会計予算案についても、いくつかの問題点を指摘した上で反対しました。

予定候補を紹介しました。続いて、構成団体が決意表明を行い、消費税に反対する各組織の取り組みを報告しました。

最後に、消費税の増税中止、生活費非課税の原則に立ち、基礎控除を170万円、配偶者・扶養控除を76万円に引き上げることなど、7項目を求める集会決議を満場一致で採択しました。

集会後、参加者は合同庁舎までデモ行進を行って、シュプレヒコールで市民にアピールし、納税者の権利を守る集団申告を行いました。

日本共産党の躍進めざし 生協病院後援会が集い

13日、日本共産党生協病院後援会の集いが開催され、

生協病院職員と事業団職員の20名が参加しました。



市議選と国政選挙で日本共産党躍進への決意を固めあいました。

初めに、尾村利成県議会議員が、今回の市議選は森友学園の問題などにみられる安倍政権を退陣に追い込むために、国の悪政にキツパリ対決する日本共産党市議会議員の3名の当選が何としても必要であると訴えました。

参加者は、3名当選のために力を合わせることを確認しました。

ずいそう

市民とともに歩んで…



保革を越えた
共同の力広げて

橘 祥朗

いま、私の地元八束町に、

「明るい町」号外として「希望ある町づくり」一緒に」と、まちづくりの提案をお届けしています。

①「花の町」「食と農のまち」で、食べ歩きのできる町、②赤貝等の漁業の復活、泳げる豊かな中海の復活へ、③福祉のまちづくり、④住みよい八束めざして市政の課題をチェックしよう

町議時代から党派を超えた多くの皆さんからご支援をいただけてきましたが、4年前から「八束の明日を考える会」(以下考える会)

4つの提案は、これまでの取り組みで明らかになってきた課題を、「八束の明日を考える会」の皆さんと整理し、政策として訴えているものです。

町議時代から党派を超えた多くの皆さんからご支援をいただけてきましたが、4年前から「八束の明日を考える会」(以下考える会)

に発展し、党との共同の力で、私を市議会に送り出していたできました。

「町おこしに与党も野党もない、皆の声を聞き、議会の場でしっかりと発言してほしい」と期待の声を寄せていただいています。

そして、この4年間、幅広い皆さんに呼びかけ、地域の課題についての勉強会を継続してきました。

いま共産党は「市民と野党の共同で新しい政治を」と訴えています。小さな町ですが、保革を越えた共同の力をもう一回り広げていただいで出陣です。



標高456㍎の枕木山の頂上付近にある古刹・華蔵寺(けぞうじ)。その薬師堂(写真左)前から眼下に、大根島を浮かべた中海、弓ヶ浜、そして遠くに大山を望むことができる。眼を境内に転じると、樹齢数百年の大杉や老樹がうつそうと繁り、古い山門や開山堂、本堂が建ち並ぶ。晴れた日には、本堂西の展望台からはるか隠岐の島も見えるという。

もつえり 探訪

■ 湖北・東部一華蔵寺 —松江城の鬼門を護る 県下最大の磨崖仏—

文と写真 吉川 晴雄 (17)

禅宗南禅寺派の古刹室町期に隆盛極める華蔵寺の開山は古く、天長2年(825)に智元上人が天台宗寺院として開いたと伝わる。鎌倉末期に南禅寺派の末寺禅寺として復興し、鰐淵寺(出雲市)とともに修験の山として信仰を集め、室町期にはこの地方の名刹として、「枕木十二坊」として諸山に列位されるほど隆盛をきわめた。しかし、その後兵火に会い衰退した。

華蔵寺の薬師如来坐像は平安末期の作で、国の重要文化財。境内のお成り門は江戸時代中期の建造で市指定文化財となっている。また、仁王門に安置されている金剛力士像は運慶作と伝えられている。



華蔵寺近くから萃出
松江城鎮め物「玉石」

寄進で建立されたもので、350年の歴史をもつ。境内のお成り門、鐘楼門は江戸中期の建築である。

また、松江城築城の鎮め物で、2015年に天守閣とともに国宝指定された丸い石「玉石」も、最近の調査によつて、この華蔵寺近くの三坂山から産出されたものかわかり、鬼門として祈願寺となつた華蔵寺との関係が注目を浴びている。